

がん検診の種類



胃がん検診

胃内視鏡検査は、口や鼻から入れた小型のカメラにより、食道や胃、十二指腸の状態を直接確認します。
バリウム検査は、バリウムと発泡剤を飲み、X線で見える検査です。

肺がん検診

胸部 X 線検査は、写真により、肺の表面に近い場所に行えるがんを発見します。
緊急性が高い方のみ、喀痰細胞診(痰の細胞成分を顕微鏡でみる検査)により、気管や気管支のがんを検査します。

乳がん検診

X線検査(マンモグラフィ)は、透明なプラスチックの板で乳房をはさむ専用の装置により行われます。
町では、30代の方を対象に、超音波(エコー)検査の助成もしています。

子宮がん検診

視診は、子宮頸部を直接観察し、炎症の有無を確認します。
細胞診は、子宮頸部付近の細胞を綿棒などでこすり取り、がん細胞の有無を調べます。ほとんど痛みはなく、短時間で調べることができます。

大腸がん検診

2日間分の便を採取し、便に混じる血液の有無を調べる検査、いわゆる検便を行います。
食事制限の必要もない簡単な検査ですが、がん検診の中でも、早期発見によって死亡率が最も下がる事が証明されています。

がん検診のすすめ

日本人の死亡原因でもっとも多い「がん」は、高齢者だけでなく、幅広い年齢層でトップの原因となっています。コロナ禍でも検診を控えることなく、自分や家族のために「がん」を見張りましょう。

子育て健康課 ☎84-0327



「がん」とは何なのか

「がん」は、異常な細胞が増え続け、歯止めがかからない状態のこと。やがて、正常な細胞が機能なくなり、内臓などに影響が出ます。

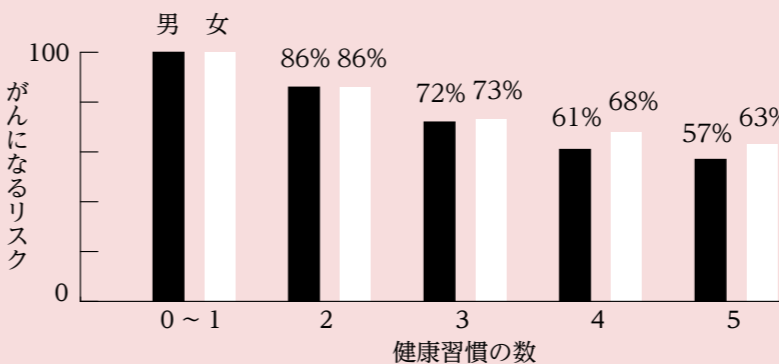


細胞は分裂を繰り返して、生まれ変わります。遺伝子によって、数が増えすぎないようにコントロールされています。
細胞が生まれ変わるとき、まれに遺伝子が傷ついてしまうことがあります。これが「がん細胞」です。
人間の身体には、がん細胞を監視・退治する力がありますが、細胞の増殖を抑えられないことがあります。
増え続けたがん細胞は、やがてかたまりをつくり、周囲に広がったり、移動しやすくなったりします。
がん細胞のかたまりから、血液などを通して、遠くの臓器や組織へと広がり、到着先でまたかたまりをつくります。

リスクを下げる健康習慣

がん細胞の発生を抑えることはできなくても、毎日の習慣でがん化するリスクを下げることができます。

- 禁煙する** 喫煙は発がんのリスクを1.5倍に
- 節酒する** お酒は1日1合まで
- 食生活を見直す** 野菜・果物を食べ塩分は控えめに
- 適度に運動する** ウォーキング毎日60分 ランニング毎週60分
- 適正な体重を保つ** 太りすぎもやせすぎもダメ



「がん化」の可能性を下げる

国立がん研究センターによると、がんの予防に重要なのは、「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重」「感染※」の6つ。「感染」以外は日頃の生活習慣に関わるもので、取り組む項目が多いほどリスクが下がることが分かっています。

※ 肝炎ウイルスによる肝がん、ヒトパピローマウイルスによる子宮頸がん、ヘリコバクター・ピロリによる胃がん等

お知らせ

乳がん・子宮がんの集団検診の予約受付が始まります

9月1日(水)~

※ 完全予約制・先着順

日程などの詳細は、町の健康カレンダーをご確認ください



2人に1人が「がん」に
がんは、「自分には関係ない」「まだ若いから大丈夫」と思っていますか。
実際には、2人に1人が「がん」にかかり、そのうち3人に1人が亡くなっています。
しかし、医療の進歩により、一部の「がん」では早期発見・治療が可能になりました。
早期発見・治療ができれば完治の可能性が高くなります。
早期のがんでは、症状が出ないことが多いため、発見のためには定期的ながん検診の受診が大切です。
ただし、自覚症状がある人や経過観察中の人は、検診ではなく、医療機関にご相談ください。

コロナ禍でもがん検診を
新型コロナウイルス感染症の流行による外出控えが続いていますが、がん検診は定期的に受ける必要があります。
集団検診の会場でも、医療機関でも、対策を万全に整えているため、安心して検診を受けてください。

受診は計画的に
町の会場で実施する集団検診は、感染症対策のため、完全予約制となっています。また、町が指定する医療機関での個別検診は、例年3月が大変に混み合うため、いずれの場合も、早めに受診の計画を立てるようにしましょう。